

加藤アキラ回顧展



「天と地の間」2004年

加藤アキラ  
「孤高のブリコロール」  
それでも前衛美術であり続けること

〒027-2301-144  
アート前橋

3月18日(土)からアート前橋で、企画展「加藤アキラ 孤高のブリコロール」を開催。作家の手により復刻された過去の作品から最新作までを展示する、加藤アキラさん初の回顧展です。

加藤 アキラ  
群馬を離れず創作活動を続けてきたアーティスト



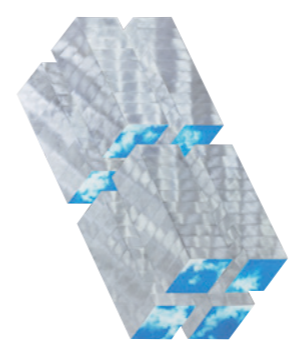
79歳、前橋での挑戦再び  
自分の全ての時代の作品が並びます。1年ほど前に回顧展の話ももらいましたが、年齢のこともあり、自分一人で大きい企画展ができるか不安も。でも、今までの作品の傷みを修復、オーバーホールしていく中で、これは自分でも見たことのない展覧会になる。面白い、と思うようになりました。広瀬川沿いの制作現場で作業を進め、新作も作っています。

ブリコロール(器用人)とは、ありあわせの材料を用いて別の目的に役立てる人のこと。高度経済成長期に工業製品を身近な素材とした作品は、物を再生させる新たな価値観が求められる現代に、多くのヒントをくれます。

学芸員 吉田 成志



「環」2013年



「Space Compression 1」1969年



群馬のアーティスト  
加藤アキラの初回顧展

加藤アキラさんは1960年代に前橋を舞台に活動した群馬NOMOグループの作家として活躍。車の整備工をしながら作品制作を行い、アルミニウムやワイヤーブラシなど身の回りにある道具や素材を用いた作品で注目を集め、1969年には全国的に評価の高い新人を選出する「現代美術の動向展」(京都国立近代美術館)に選ばれます。

身の回りで廃棄されていく日用品や自然の素材を寄せ集めてわずかな細工を施す「ブリコロール」によって作品へと昇華させます。リノベーションやオーバーホールなど物を再生させ新たな価値観を付与することが求められる時代に、日常に埋もれて行く産業製品に息吹を与える加藤さんの作品は多くの示唆に富みます。



3月18日(土) - 5月30日(火)

水曜休館 (5月3日は開館)

観覧料=500円  
※学生・65歳以上・10人以上の団体・午後5時以降の入館者は300円。4月16日(日)は無料

広報まえばし  
読者限定



主任 辺見 実沙

アート前橋を堪能

クーポン券(左上)を受け付に出すと、観覧料が300円に割引になります。企画展だけでなく、館内カフェでのおしゃべりやミュージアムショップでの買い物など、楽しい1日を過ごしてください。

昨年、県立近代美術館で「群馬NOMOグループの全貌」展が開催され、注目が集まっています。写真しか残っていないものも含め、加藤さんが制作した全作品を掲載した図録も販売します。

学芸員 五十嵐 純

同時開催 (観覧無料)

中堅アーティストを紹介する企画展「Art Meets」を開催します。第4回は田幡浩一さんと三宅砂織さん。記録するメディアを用い、絵画的な表現を通じて、イメージを見る経験の中にある不確かさを描き出します。

街を回遊してアートを堪能  
前橋文学館では「萩原朔美の仕事展」を開催中のほか、3月10日(金)から26日(日)まで広瀬川美術館でも応援企画があります。

Art Meets04 田幡浩一 | 三宅砂織



田幡浩一 「72 colour(Birds)」2014年 三宅砂織 「Cats(1)」2012年